

桧木内川河川敷 クリーンアップ活動

8月8日、角館漁業協同組合の若手組合員によるルアーフィッシングクラブ「P.M.C KAKUNODATE」（青柳利之会長）が、古城橋から横町橋にかけて、桧木内川河川敷のクリーンアップ活動を行いました。

青柳会長は、「近年、頻繁な熊の出没により、草刈りなど河川環境の管理も進んでいるが、大雨の影響により河川にゴミが散乱していた。鮎釣りも本格的に始まり、我々地元アングラーだけではなく、釣り人をはじめ、地域で自然を大事にすることが重要で、クラブとしてもその一躍を担えればと思っています。」と話しました。



特集
Vol.2

仙北市病院事業インタビュー！ ～信頼される病院を目指して～

この特集では、仙北市病院事業スタッフへのインタビューを通じて、仕事の魅力・やりがいなどを多角的な視点から掘り下げていきます！

あなたの仕事はどんなことを行いますか？

角館総合病院の急性期病棟において、手術後や症状が急変した患者様の緊密な状態観察と、迅速な医療処置を行っています。さまざまな医療処置における管理、医師の診療補助、そして回復に向けた早期離床や病態に合わせたサポートが主な業務です。病状の変化が激しい現場だからこそ、的確な判断力と専門知識を持ち、安全で質の高い看護の提供に努めています。

この仕事に就こうと思ったきっかけを教えてください！

「将来は人の命を助ける仕事に就きたい」という強い思いを抱いていたことが、看護師を目指した原点です。医療の最前線で患者さまの命に直接関わり、回復を一番近くで支えられる看護職に魅力を感じたため、看護師という職業を選びました。

仕事における「やりがい」は何ですか？

生まれ育った地元で、地域の皆さまの健康と命を守る業務に携わることができることに強いやりがいを感じています。角館高校野球部で培った体力と粘り強さを活かし、日々の業務に全力で向き合っています。病気などで苦しんでいた患者さまが不安なく笑顔で元気に退院していく姿を見ることが一番の喜びです。

市民の皆さまへメッセージをお願いします！

現在も生保内に在住し、地域の皆さまと同じ目線で日々の生活や健康をサポートしています。体調について少しでも不安なことや気になることがあれば、どうぞお気軽に市立病院を頼ってください。

仙北市で暮らしている地域の皆さまが、これからも住み慣れたこの地域で安心して笑顔で暮らし続けられるよう、看護の現場から全力で寄り添います！



市立角館総合病院 看護部
ちばらんまる
千葉 蘭丸 さん



日々スキルアップに努めています！

秋田県消防協会 大仙仙北美郷支部消防訓練大会

7月18日、「大曲の花火」公園（大仙市）を会場に、秋田県消防協会大仙仙北美郷支部消防訓練大会が開催されました。

大仙市・仙北市・美郷町の各大会で勝ち上がった上位分団が出場し、日頃の訓練の成果を発揮しました。大会では、小型ポンプ操法の部が行われ、指揮者の号令のもと、消防団員が迅速かつ正確な動作でホースを延長し、放水するまでの一連の動作を競いました。



小型ポンプ操法の部で3位に輝いた第8分団1班

仙北市からは、小型ポンプ操法の部に第4分団2班・3班、第8分団1班が出場。選手たちは、これまで積み重ねてきた訓練の成果を発揮し、息の合った操法を披露しました。

▶仙北市の結果は次のとおりです。

小型ポンプ操法の部 ※（ ）は地区名

第3位 第8分団1班（白岩）

第4位 第4分団3班（神代）

第5位 第4分団2班（神代）

小型ポンプ操法の部 個人賞（敬称略）

1番員 高橋 修造（第4分団2班）

訂正とお詫び

8月号の記事（32ページ 未来に残そう 磨き上げた技術で、地域の安全を守る～仙北市消防訓練大会～）の中で表記に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

【誤】第8分団1班（中川地区）

【正】第8分団1班（白岩地区）

鈴木颯太さん 第15回倉敷国際少年野球大会に出場

7月28日、生保内中学校3年の鈴木颯太さんが、第15回倉敷国際少年野球大会に東日本選抜チームの一員として出場することを報告するため、市役所を訪れ、市長を表敬訪問しました。

鈴木さんは中学硬式野球チーム「大仙ヤング」に所属し、キャプテンとしてチームをけん引しています。東日本選抜チームには大仙ヤングから鈴木さんを含む4人が加わり、8月14日から16日にかけて岡山県倉敷市で開催された第15回倉敷国際少年野球大会に出場しました。

鈴木さんは「素直に選ばれてうれしかったです。この舞台に感謝して、一戦一戦を大事に戦ってみたいです。」と大会への抱負を語りました。

大仙ヤングの伊藤隆裕監督は、「颯太の武器は安定感のある守備で、普段はおとなしいですが、野球に向き合う姿勢はとても熱い選手です。」と期待を寄せています。

市長は、国際大会という大舞台でも仲間と力を合わせて思い切りプレーし、貴重な経験を積んでほしいと激励するとともに、仙北市民みんなで応援しているとエールを送りました。

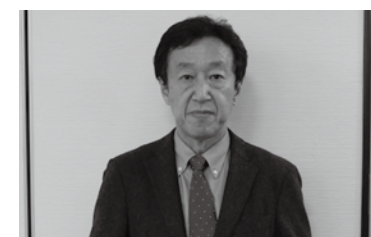


行政相談委員に鶴田和則 さん

田沢湖地区の行政相談委員として、令和8年7月15日付けで鶴田和則さんが新たに委嘱されました。

行政相談は、どなたでも無料で相談できますので、お気軽にご利用ください。

※行政相談委員の連絡先はP.34の「行政に関する相談ごとは行政相談委員に」をご覧ください。



「地域みらい留学」で全国から仙北市へ！

～今年の春、京都から角館高校に新たな仲間がやってきました～

仙北市と角館高校では、全国の教育に関心のある中学生が、地域の魅力を活かした魅力的な高校へ進学できる「地域みらい留学」の取り組みを推進しています。

今年4月、この制度を活用して京都府から中村勇楽（なかむらゆうま）さんが角館高校に入学しました。親元を離れ、仙北市で新しい一歩を踏み出した生徒のリアルな声と、地域の魅力を全国に伝える活動の様子をご紹介します。

●京都から角館高校！1年生インタビュー

【Q 角館高校を選んだ理由は？】

K-POP が大好きで「韓国語を学びたい!」という思いがあったからです。また、自立に向けて「一人暮らしをしてみたい」と考えていたことも決め手になりました。

【Q 地元を離れて遠くの高校へ進学。不安はありましたか？】

仙北市の手厚いサポートがあったおかげで、不安なく挑戦を決めることができました。

【Q 実際の暮らしはいかがですか？】

学校から自転車で7分ほどのシェアハウスで生活しています。最初は生活リズムを作るのが難しく、ホームシックになる暇がないほど忙しい毎日でした。でも、近くにスーパーがあって自転車やネット環境も整っているので、生活で特に不便を感じることはありません。

【Q 仙北市に来て自分自身の「変化や成長」は？】

親がいない分、自分から行動しないと何事も前に進みません。「自発的に行動する力」が身についたと実感しています。

【Q 地域みらい留学を目指す後輩たちへメッセージ】

新しい環境や家族と離れることに不安はあると思いますが、高校生活のたった3年間を家族から離れて過ごすことは、すごく貴重な経験になります。ここで得る経験は「一生の財産」になります!ぜひ角館高校に来て、全力で楽しみましょう!

●高校進学フェスでも大活躍!

6月には東京で開催された「地域みらい留学 高校進学フェス」に角館高校が出展。

今回入学した留学生本人もブース対応に協力してくれました。自身の体験談や仙北市での生活の魅力を、進学を検討している全国の中学生や保護者へ直接アピールし、来年度の新たな留学生の呼び込みに向けて、頼もしい先輩として積極的にPR活動を行ってくれました。



●問合せ / まちづくり課 ☎0187-43-3315



【市民の皆さまへお願い】

留学生を受け入れてくださる「下宿・受入家庭」を募集しています!

全国から仙北市を目指してやってくる留学生たちが、安心して生活・学習できる環境を確保するため、留学生を受け入れてくださる「下宿・シェアハウス物件」や「受入家庭」を探しています。

「空き家や空き部屋を有効活用したい」「地域の未来を担う高校生を温かく応援したい」「食事の提供や生活サポートで協力できる」といった思いをお持ちの方は、ぜひ一度お問い合わせ・ご相談ください。地域全体で全国の若者を育て、見守る温かい環境づくりにご協力をお願いします。

【地域みらい留学とは】

地域みらい留学は、日本各地にある魅力的な190の公立高校の中から、住んでいる都道府県の枠を超えて、自分の興味関心にあった高校を選択し、高校3年間をその地域で過ごす国内進学プログラムです。

詳細はこちら➡



善意ありがとうございます

一般財団法人 角館感恩講

「こども食堂（食彩 舞桜）」へ支援物品を寄贈

7月16日、一般財団法人角館感恩講から、子どもの孤独の解消や居場所づくりに取り組む「こども食堂（舞桜）」へ、食品や衛生用品などが寄贈されました。

舞桜では、毎月1回程度「こども食堂」を開催しているほか、開催日に限らず、子どもたちがいつでも立ち寄ることのできる居場所となるよう、日頃から受け入れを行っています。

今回の寄贈は、こうした活動への支援として行われたもので、令和6年度から継続して実施されています。食品や衛生用品などは、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりに役立てられます。



上桧木内料理研究会

紙風船館調理室へ調理器具一式を寄贈

8月3日、上桧木内料理研究会代表の浅利けい子さんから、紙風船館調理室の利用促進を図るため、調理器具一式をご寄附いただきました。

今回の寄附は、地域で料理や食を通じた活動に取り組む上桧木内料理研究会から、地域の施設をより多くの方に活用してもらいたいとの思いから寄せられたものです。

市では、寄附いただいた調理器具を大切に活用し、地域の皆さんが集い、交流できる場として、紙風船館調理室の利用促進につなげていきます。



KDDI 株式会社

KDDI 株式会社から鳥獣害対策へ寄付金を贈呈

8月19日、KDDI 株式会社から仙北市へ寄付金が贈呈され、田沢湖庁舎で贈呈式が行われました。

今回の寄附は、KDDI が2008年度から取り組んでいる社員参加型の社会貢献活動「+αプロジェクト」によるものです。同プロジェクトでは、社員が行ったボランティアなどの社会貢献活動をポイント化し、ポイントに応じた金額をKDDI が慈善団体などへ寄付しています。

仙北市では、山林の餌不足などの影響により、ツキノワグマやイノシシなどによる農作物被害が増加しており、迅速かつ効果的な鳥獣害対策が求められています。

今回いただいた寄付金は、こうした地域課題の解決と、市民の皆さんが安心・安全に暮らせる生活環境の確保に向けた鳥獣害対策に活用されます。

贈呈式には、KDDI 東北総支社長の神野直俊さんと田口知明市長が出席し、神野さんから田口市長へ寄付金が手渡されました。



世代をつなぐ 白岩ささら

～県指定無形民俗文化財「白岩ささら」～

8月15日、雲巖寺で県指定無形民俗文化財「白岩ささら」が奉納されました。はじめに地域の子どもたちによる「こどもささら」が披露され、その後、白岩若者会による勇壮な舞が奉納されました。「ザッザカ」と呼ばれる道化役が木の板を擦り合わせ、「ささら」の音を響かせる中、3体の獅子が華麗に舞います。400年以上の歴史を持つといわれる白岩ささら。神仏への供養と五穀豊穡を願う伝統の舞が、お盆の白岩に受け継がれています。



白岩若者会によるささら



こどもささら



伝統と笑顔があふれる湖畔

～たざわ湖・龍神まつり～

7月25日、田沢湖畔で「たざわ湖・龍神まつり」が開催されました。

会場では、K-POP ダンスや古典落語、和太鼓演奏、郷土芸能など、多彩なステージイベントや龍走ちゃれんじが行われ、多くの来場者で賑わいました。夕方からは雨が降る場面もあり、「双龍の出会い」は辰子龍のみの演出となりましたが、湖面に舞う勇壮な姿が幻想的な雰囲気を生みだしていました。フィナーレの田沢湖花火・DJ 龍夜祭では、色鮮やかな花火が夏の夜空を彩り、訪れた人々は夏の田沢湖を満喫していました。



テレビから市の情報をお届け

～「仙北市テレビ回覧板」スタート～

7月31日、仙北市と秋田朝日放送（AAB）は、テレビのデータ放送を活用した「仙北市テレビ回覧板」の開始に伴う共同記者会見を仙北市役所角館庁舎で行いました。

「仙北市テレビ回覧板」は、AABのデータ放送を利用し、テレビ画面から市のお知らせやイベント、防災・災害に関する情報などを確認できるサービスです。8月1日から運用を開始しました。

記者会見では、AABの樋口敦史社長が、「テレビを通じて地域の情報を届けることで、スマートフォンやインターネットの利用が苦手な方にも情報を届けられるサービスとして、より多くの皆さんに活用してほしい」と期待を述べました。

田口市長は、広報紙やホームページ、SNS などに加え、テレビという新たな情報発信手段が加わることで、市からの情報をより多くの市民に届けられることができるとし、「市民の皆さんに必要な情報をしっかり届けていきたい」と話しました。

利用方法は、AAB（5チャンネル）を選局し、テレビのリモコンにある「dボタン」を押して「仙北市テレビ回覧板」を選択するだけ。市では、日頃のお知らせだけでなく、緊急時の情報発信などにも活用していく予定です。



世代をつなぐ 石神の郷土芸能

～市指定無形民俗文化財「石神番楽」と「生保内田植え踊り」～

8月14日、石神地区の掛樋神社で祭典が行われ、地域に受け継がれる市指定無形民俗文化財「石神番楽」と「生保内田植え踊り」が奉納されました。石神地区では、子どもたちも幼い頃から舞や踊り、太鼓を学び、郷土芸能を身近なものとして受け継いでいます。この夜は、地域を練り歩いたぼんでんが神社に到着すると、笛や太鼓の音、勇壮な掛け声が田園に響き渡りました。地域の人々が集うお盆の夜、古くから受け継がれてきた芸能と伝統が、今年も石神地区を彩りました。



受けつがれる生保内田植え踊り（左）と石神番楽（右）



祝

令和8年度

仙北市 二十歳の集い

8月15日、仙北市民会館で「仙北市二十歳の集い」が行われました。

当日は、151人が出席し、恩師などに見守られるなか、二十歳の節目を祝いました。

式典は、田口天太さんが司会を務め、鎌田宇朗さん、安藤愛凜さん、栗山駿太さん、安達優馬さんの4人が誓いのことばを述べ、これまで支えてくれた家族や友人、地域の皆さんへの感謝とともに、これからの人生に向けた決意や抱負を語りました。

式典の合間には、久しぶりに顔を合わせた友人たちと記念写真を撮ったり、近況を報告し合ったりする姿が見られ、会場は笑顔と再会を喜ぶ声に包まれていました。二十歳という人生の節目を迎えた参加者たちは、これまでの歩みを振り返りながら、それぞれの未来へ向けて新たな一歩を踏み出しました。

誓いのことば



左から鎌田さん、安藤さん、栗山さん、安達さん





第177号



講師 溝口真矢さん、土屋和久さん
佐藤成真さん、奈良悠生さん
奈良 萌さん、西山 怜さん
長村牙樹さん、須山聡也さん

7月13日、生保内中学校PTA校外指導部主催による田沢湖地区で生活する移住者から仙北市の良さを学ぶ会が開催されました。この企画は田沢湖地区に暮らす移住者の方々と地元中学生との交流を願い、移住者と鈴木徹校長が話し合いを重ねて実現しました。この日は8人の移住者を講師として招き、授業参観を兼ねて、約40人の保護者と全校生徒が魅力ある田沢湖地区での生活の話に熱心に聞き入りました。「地域の風景を守る」「何もないとどこに何かをつくる」「僕にとって青春が田沢湖」「生き方は多様」「20年後の仙北市は誰がつくるか」など講師の熱い思いに会場は圧倒されました。千葉煌我さんは「外に出て経験を積んだり、自分とは違う視点の話の聞いたりする経験を大切にしたい」と振り返りました。溝口さんからの「田沢湖はもう少し未来が作れる特別な場所。5年後、10年後に何かを一緒にやろう」という呼びかけに生徒たちは目を輝かせていました。

移住者の方々から
仙北市の魅力を学ぶ会
(生保内中学校)



【令和8年度 体験先企業】
(株) 龍神巧業、(株) 藤井工務店、
農事組合法人 生保内南

7月28日、29日に小学校6年生を対象とした職場体験学習を行いました。1日目は市内の3つの企業・事業所で、もの作りや生産流通を学びました。イチゴの収穫を体験した佐藤優汰さん(松木内小)は「商品として出せるものと出せないものの見分けが難しかった」、土地の調査で使用するドローンを飛ばした藤村琉花さん(神代小)は「学校でもやったことがあったけれど、操縦が難しかった」と振り返りました。

ヤマメサワフラスプロジェクト
小学生による職場体験学習



【わくわくスタンプラリー田沢湖西木編】
予定の時期：10月3日～11月8日
予定の場所：生保内・神代地区
西明寺・松木内地区

8月4日に市総合情報センターで子どもサミットが開催され、市内10校から児童会・生徒会の代表が集まりました。今回は「仙北市わくわくスタンプラリー田沢湖西木編」について協議。前回の「角館編」での課題や改善点を振り返りながら、より魅力的なイベントにするため、対象者の広げ方や応募方法、効果的な宣伝アイデアなど、さまざまな視点から活発な意見交換が行われました。協議にはタブレット端末が活用され、各班がまとめたアイデアを全体でスミーズに共有。梁田いちほさん(西明寺小)は「初めて会った人たちとも、協力して意見を一つにまとめることができてうれしかった」、佐々木琉李哉さん(神代中)は「みんな意見交換をして、とてもいい話合いになった。自分もスタンプを集めて応募したい」と前向きに語り、充実した時間となったことをうかがわせました。子どもたちの柔軟な発想と熱意が詰まった、これからのスタンプラリーの展開にご期待ください。

第29回 わくわくサミット
Semboku city シニア未来会議



今回の交流学習は松木内中として最後の実施となりました。会場の山鳩館は、かつて上松木内中の校舎であったこともあり、地域の方々からは少子化や、それに伴う学校の変化を惜しむ声が聞かれました。

8月5日に多世代交流施設山鳩館において施設利用者や民生児童委員など多くの地域住民と松木内中学校の全校生徒による交流学習が行われました。今年は伝統の郷土料理である「ちまき作り」に挑戦。生徒数を上回る地域の皆さんが講師となり、笹の葉での包み方などを指導しました。生徒に交じって活動した教員も温かなアドバイスを受けるなど、会場は終始、和やかな雰囲気包まれ、2年齋藤和志さんは「紐の結び方や米の量の調整が難しかった」と振り返りました。

多世代交流体験学習
(松木内中学校)

夏を彩る華やかな吹奏楽の音色

～ノースアジア大明桜高校吹奏楽部 納涼コンサート～

8月18日、仙北市民会館を会場に、ノースアジア大明桜高校吹奏楽部による納涼コンサートが開催されました。同部は全国大会にも出場する強豪校で、仙北市を合宿地として約10年前から毎年訪れています。今年は7月に続き、2回目の合宿となりました。今回のコンサートは、合宿での練習の成果を市民の皆さんに聴いてもらおうと、同校と仙北市民会館が企画したものです。当日は音楽を楽しみに多くの市民が来場。翌週に控えた東北吹奏楽コンクールに向けて練習を重ねた演奏を披露し、会場を大いに盛り上げました。



(百寿) おめでとうございます

次の方々が100歳の誕生日を迎えられ、仙北市からお祝いが送られました。



黒澤善治さん
(角館町山谷川崎)
7月17日生まれ



阿部静枝さん
(角館町上野)
7月30日生まれ



加藤正雄さん
(田沢湖神代)
7月19日生まれ



羽根川カタさん
(田沢湖田沢)
7月20日生まれ



高橋サヨさん
(田沢湖卒田)
7月21日生まれ